

2018年度教育研究活動報告用紙(様式9(2018))

氏名	丸山 泰子	職名	助教	学位	修士(保健看護学) 川崎医療福祉大学 2011年
----	-------	----	----	----	--------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学	認知症ケア

研究課題
・認知症高齢者の生活機能の維持・改善に効果的なケアのあり方を探求する。

担当授業科目
成人・老年看護学演習(前期) 老年看護学実習Ⅰ(前期・後期) 老年看護学方法論(後期) 生活援助技術論(後期) 基礎看護学実習Ⅰ(後期)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人・老年看護学演習(前期) 】</p> <p>1. 看護過程演習</p> <p>3人の教員で4グループ(17名)を担当した。2年次の看護過程論で学んだことを想起させ、それを土台に疾患を踏まえたアセスメントが学びとして上乘せされるよう意識して関わった。特に、各パターンで考えるべき視点、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかに重点を置き、助言を行った。また、急性期、慢性期、老年期と事例が変わるごとに患者の病期を押さえ、回復の経過を踏まえた展開となるよう指導に努めた。</p> <p>2. 技術演習(ADL援助)</p> <p>事例を読み込み、アセスメントを踏まえての技術実践になっているか確認をしながら指導を行った。また、患者に対し精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中問いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。</p> <p>(担当:嚥下障害のある患者のアセスメントと食事介助について、片麻痺患者のトイレ移乗介助の技術テスト)</p>
<p>授業科目名【 老年看護学実習Ⅰ(前期・後期) 】</p> <p>老年看護学実習Ⅰでは、回復期・維持期にある高齢者に対する看護を学ぶ。患者のこれまでの人生、生活に目を向け、患者の望む今後の安全な生活を念頭に、生活機能を中心とした患者の全体像を捉えることができることを重要課題と位置づけ、臨地指導を行った。世代の違いから学生は高齢者の思い、悩みに気づき辛い。身体と心の課題に学生が自ら気づけるように問いかけ、その気づきがアセスメントと提供するケアにつながるよう指導に心がけた。</p> <p>また、チーム医療、協働に関する理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスなど多職種連携に関する学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。</p>

<p>授業科目名【 老年看護学方法論（後期） 】</p> <p>高齢者の安全に関する回を担当。有害事象、環境をキーワードとし、発症要因と事故予防の視点について解説した。知識として覚えるだけではなく、実際に3年次の臨地実習でこの知識がケアとして生かせるように、臨床での実際の取り組みや、現3年生が臨地実習で高齢者の安全に関しどのようなケアを展開しているか、具体例を出し、イメージしやすいよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 生活援助技術論（後期） 】</p> <p>排泄を促す技術（おむつ使用、陰部洗浄等）を担当。適切な手順のみでなく、精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中間いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。</p>
<p>授業科目名【 基礎看護学実習Ⅰ（後期） 】</p> <p>1年生にとっては初めて受け持ち患者を担当しての本格的な臨床実習であり、患者との関わりを通し、自己のコミュニケーションの傾向に気づく事を目標のひとつとしている。患者の発した言葉をどのように受け止め、解釈するか、そのコミュニケーションが学生主体になっていないか、自分の関わりが患者に与える影響や自分の傾向・課題に自ら気づいていけるよう問いかけた。学生の気づきをもとに、共に検討していく姿勢での指導を心がけた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本在宅ケア学会		2008年7月～現在に至る
日本看護研究学会		2010年3月～現在に至る
日本老年看護学会		2010年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2011年6月～現在に至る
日本認知症ケア学会		2012年5月～現在に至る

2018年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				

2018年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学会発表) 認知症高齢者の生活機能の維持・改善に関する研究： デイサービスにおけるケア効果についての一考察	共	2018年11月3日(土)	日本看護研究学会 第23回九州・沖縄地方会学術集会 (於：長崎大学医学部坂本キャンパス)	① 認知症高齢者の生活機能の維持・改善に向けた支援のあり方について示唆を得ることを目的に、デイサービスの介護者に対し面接調査を行った。分析の結果、介護者は行動・心理症状の要因を探り対応を検討すること、また、自己決定できる機会を意図的に作り、認知症高齢者が自分から動き始めるよう工夫していること等、認知症高齢者が安心できる環境を創りに努力していることが明らかになった。 ② 共同研究者：丸山泰子、樫直美 ③ 日本看護研究学会 第23回九州・沖縄地方会学術集会抄録集 p40

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者()内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金(科学研究費補助金等)導入状況(本学共同研究費を含む)

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)	
・看護学科研究推進担当	2018年4月 ～ 現在に至る
・実習コーディネーター	2018年4月 ～ 現在に至る